

柵徳スタッフが選ぶ「私が好きな埼玉県のお薦めスポット」VoL 031

「まるで旅した気分!北欧を感じられる場所」編

アニメ「ムーミン」が、初めて放送されたのは1969年です。そんなムーミンの物語を体験できるテーマパークが飯能市にあります。森と水に囲まれ、そこはまるでフィンランド!日本にいながらも旅した気分になれます。

営業チーム
大林 勲



ムーミンバレーパーク

埼玉県飯能市宮沢 327-6 メッツア



体験型展示施設「コケムス」(写真:右下)では展示のほかに、ショップ、レストラン、ワークショップなどがお楽しみいただけます。8mを超える世界最大の「ムーミン谷」巨大ジオラマは必見です!
※「コケムス」はフィンランド語で「体験」の意味。

また、「おさびし山」(写真:左下)の頂上からは、湖の上を滑走するジップラインアドベンチャーがおすすめです。絶景とスリルの両方が味わえるアトラクションは、大人も子供も楽しめると思います。森と水に囲まれたムーミンバレーパークで、体いっぱい楽しみましょう。ご家族やご友人、お孫さんとお出かけにもオススメですよ!

柵徳は創業明治38年、木と共に1世紀

経営理念・より良い住環境をつくり手と共に住まい手へ...

人々の暮らしの中で木は常に人と密接した存在として必要不可欠なものです。目には見えない様々な場所で形を変え、人々の暮らしを支えています。家も木が形を変え、生活に密着しているもののひとつです。寝食を共にする家族の中で共有する最も身近な存在といえるでしょう。私たちは木を通じて、より良い環境を目指して前進する皆様の全力で応援することに日々精進を怠らず皆様と共に歩み続けます。



■会社名の由来

創業者初代星野徳次郎が浦和にあった柵屋という材木商で修行した後、大宮で店を出すにあたって、修行した店の屋号と本名の一字を合わせて「柵徳」としたものです。

「アールヴア・アアルト」邸を 今話題のARで体験!

フィンランドが生んだ、世界的に有名な建築家「アールヴア・アアルト」。建築だけでなく、家具や照明、ファブリックなど様々なアイテムで、北欧デザインを牽引する存在です。そこで、今号は北欧デザインについて迫りました。



株式会社 柵徳

www.masutoku.jp

■本社

〒330-0804 埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-697
TEL:048(658)5600 FAX:048(658)5605 e-mail:masutoku@masutoku.jp

■大宮営業所

〒330-0804 埼玉県さいたま市大宮区堀の内町1-697
TEL:048(658)5600 FAX:048(658)5605

■伊奈配送センター

〒362-0811 埼玉県北足立郡伊奈町西小針6-127-1
TEL:048(729)2000 FAX:048(729)2001

特集

榊徳スタッフ 濱拓也が送る、展示会レポート。

北欧の賢人「アルヴァ・アアルト」邸を
今話題のARで体験しました！

濱タクレポート



1月12日、竹中工務店 東京本店内の GALLERY A(ギャラリーエークワッド)で開催していました、建築と暮らしに関する展示会「アイノとアルヴァ 二人のアアルト 建築・デザイン・生活革命 小さな暮らしを考える」展に行ってきました。

フィンランド生まれの建築家アルヴァ・アアルトと、その妻アイノ・アアルトによる、小規模住宅のための住宅デザインに焦点を当てています。

また、建築設計だけでなく、家具、グラフィックなどの現在も使われ続けている名品も展示していました。

小さな空間だからこそ、合理性を考えた動線の配置が興味深く、変化を【目】で理解することができました。



北欧の賢人
アルヴァ・アアルト

フィンランド生まれの、20世紀に最も影響力を持った建築家。生涯、200を超える建物を設計し、そのどれもが有機的なフォルム、素材、そして光の組み合わせが絶妙な名作と知られている。

濱タクギャラリー



ダイニング

「最小限住宅」の原寸再現

アイノがデザインしたキッチン

オープンラック

作業台

展示会の目玉ポイント！

展示会、一番の目玉ポイントは「ズバリ、AR」です！
何もない空間を専用のタブレット越しに見ることで、アアルト夫妻が実際に暮らしていたフィンランドの住宅をまるで室内に入ったかのような拡張現実体験が出来るのです。
この技術は、マサチューセッツ工科大学との共同開発したものらしく、初めての経験でした。当然フィンランドの夫妻の住宅に行くことができない私たちに、これほどまでの体験をさせて頂けたことに感動しました。



何もない空間を、
タブレット越しに見ると...

AR 体験動画は、
こちらから！



今号の担当者は「チナラ」！



営業チーム
濱拓也

長野県出身、入社2年目の24歳。
長期休暇はもっぱら実家に帰ってキャンプ・スノーボードとアウトドアに今ハマっております。去年から体調管理を考へて、ランニングを始めました。
今年は上尾ハーフマラソン走ります！！

コラム1

北欧デザインが愛される
そのワケとは？

流行は絶えず変化していますが、北欧デザインの人気が続く理由は、次の3つであると考えられています。

「木」や「和」との相性が良い。

北欧のファブリックを見ると、動物柄や花などの植物柄が多く、色合いもブルーやイエロー、グリーンといったやさしいアースカラーや、自然の色をそのまま活かしたものが多く目に気づきます。このように自然の素材感や温もりを大事にしている北欧デザインは「木」との相性が抜群なので、木造が主流の日本の住宅や家具なども共存できます。
やや斬新なデザインの印象がある家具やファブリックでも、和の空間に合うんですよ！

日本人のメンタリティに似ている。

日照時間が短く、家の中で過ごす時間が多い北欧。それゆえ食器ひとつとっても、日常生活を快適にすることをこころん追求した機能性とデザイン性を兼ね備えており、使い続けるほどに暮らしになじんでいきます。
良いものを長く使いたいと考える「古き良き日本の暮らし」と通じるところがありますね。

懐ましく、控えめな美しさがある。

北欧デザインの過度に主張しない懐ましさや控えめな感じ、それでいて内なる美しさを感じさせるところは、古き良き時代の日本女性のイメージに重なるところがあります。
北欧の家具は、手工業を伝統とし、熟練の職人がひとつひとつ丁寧に作られていることが多く、耐久性にも優れているのです。また装飾を排除しているため、流行に左右されず長く使い続けることができます。

コラム2

今や「スタンダード」なのは、
北欧デザインだけじゃない！
心惹かれる
北欧のライフスタイル

北欧人気が一時的なブームに留まらず日本に定着したワケは、コラム1で挙げたように、北欧デザインが日本の住宅やメンタリティと共通点があるから、だと言えるのかもしれない。
その一方で、北欧のライフスタイルにも注目すべき点があると考えます。
「Hygge(ヒュッゲ)」という言葉をご存じですか？ヒュッゲとは、「居心地がよくなる」という意味をもつ、デンマークの人々が大切にしている言葉です。デンマークの人々はこの言葉の通り、自分の家族、生活、時間をとても大切に、国民の幸福度もとても高い国です。
日本でも近年「働き方改革」という言葉が浸透しつつあり、ヒュッゲの考え方が「スタンダード」に近づいてきている気がします。

編集後記



横森雅子

ARとは「Augmented Reality (オーグメンテッドリアリティ)」の略で、「拡張現実」と訳されています。実在する風景にバーチャルの視覚情報を重ねて表示することで、目の前にある世界を「仮想的に拡張する」というものだそうですよ！今後の住宅産業を盛り上げてくれそうですね。

余談ですが、濱は、こちらのアアルト夫妻の展示会のほかに、休日に3つの展示会へ出かけていました！どれも勉強になる、見るのが好きとのことですが、そのフットワークの軽さに脱帽です！